

【会議次第】

1.山内会長挨拶

2.議事

(1)平成 21 年度事業／決算報告・監査報告（事務局・事務長）

(2)平成 22 年度事業／予算（案）について（事務局・事務長）

(3)ヒトツナギツアーについて

(4)意見交換

3.矢田副会長挨拶

1、山内会長挨拶

19 年度発足から進めてきて、来年度は島外から 10 名近くの生徒が来る。報告などを聞いてこれからのことについて話し合っていきたい。

2、議事

(1) 平成 21 年度事業／決算報告・監査報告（事務局・事務長）

○魅力化構想を具体的に実行していく（詳細は資料）

1 新カリキュラムの実施

2 教員数の確保、事務スタッフの確保

3 公設民営の隠岐国学習センター

4 量の利活用、サイエンススクール

5 国際交流促進

6 部活動支援

7 保護者の負担軽減

8 島内外の P R 活動の充実

・見通しと課題（詳細は資料）

高校と地域の連携

週一回くらい情報共有を計る時間をとっている

○決算報告（詳細は資料）

・平成 21 年度事業／決算報告・監査報告（事務局・事務長）

遠征の実績報告

監査結果…適正

(2) 平成 22 年度事業／予算（案）について（事務局・事務長）（詳細は資料）

・高校魅力化スケジュール（案）について

新カリキュラムスタートによる準備期間あり

隠岐高校とのポイント制度の改善を図る、標準法の改善

学習センターの活動の本格化と中学生の参加を検討

寮について、島留学制度の見直し
留学支援制度の検討
地域交流部の活動の場を増やす
地域との連携を深め交流を広げていく
情報を流すときにメールの活用について検討
より効果的なPR方法の検討
島内生徒寮費補助検討
海士→西ノ島の高校生内航船補助検討
安定した推進体制の更なる確立

- ・平成22年度予算書（案）（詳細は資料）
- ・校長挨拶
3年生は進路が順調で就職は早々と内定。
国公立大学には4名合格
私立5名
公立短大5名
私立短大6名
専門学校16名
就職5名（一名公務員）
一部重複あり

非常に頑張ったと思う。担任ともども喜んでいる。来年度は34名の生徒が来る（編入1年に1人、2年に1人）県外から4名。本土の島根県から4名の生徒がやってくる。20名以上の生徒から島前高校へのオファーがあり、一度島前高校へ足を運んでもらうことも多くあった。学校の魅力化に惹かれてきた子と、少しやり直したいという理由でくる子など。素行の悪そうな生徒はいない。締め切り後にも5名ほど連絡があった。今年度までは紙の中で計画、次の年からどのように子ども達を育てていくかということが重要。今年は9名の教員の異動。新しく来る先生方に魅力化を伝え、引継ぎをしていきたい。

- ・質問意見

教員が来やすい環境づくりのポイント制とは？

→人事異動ルールがあり、隠岐高に3年いるのと島前高に3年いるのではルールの中で得られるポイントが同じなのでそこに差を付けて島前高へ来やすくしたい。県教委への働き掛けが必要。

- ・物理の先生の確保

教育長や知事の理解が深かったのが確保に多くの原動力となった。島前高校の環境への理解してもらえた。

(3) ヒトツナギツアーについて

観光甲子園でグランプリ獲得。生徒が中心となり準備を進めてきた。今回のツアーには、島根県からの補助がある。3月26日～3月30日4泊5日。10名の募集で15名の申し込みがあり、書類審査などで10名に絞る。島前の中高生8名あわせて計18名参加。

初日は焼火神社

2日目は三島に分かれて活動、地域との交流

3日目はホームステイ

4日目はだんだんパーティー、寮活用

5日目新たなつながり

コンセプト…島前の一番の魅力は人である。人とつながれば何度でも来てもらえる。自然体験ならぬ人体験、人とのつながりを思い出にしていける。

中高生を対象・・・また島前高校にきたいとつながればいい。

動画の撮影もして、インターネット上で情報発信も考えている。魅力化の推進協議会や地域の協力が
必要

(4) 意見交換

魅力化の会・・・生徒数の確保、新コース、これからの生徒にどれだけの実績が出るか問われる。

先生の熱心な指導で進学への実績

これからの2つのコースをどう活かしていくか

地域の人たちとの交わりが増えていくのではないかな？

各町村の協力が必要、これからの協力を頼みたい

・新たなカリキュラムへの反応は？

→各町村の反応は一部関心を持っている方もいた

→進学については？

→特別進学コースへの反応と言うものはあまり無かった、学習センターへの質問があり、どういうことをやっていくのかという内容であった。

・寮について、島内生徒への補助についてはまだ確定していないのかな？

→まだ決まってはいない

→これからお願いをしていくことになる

寮に入ると学習センターの利用もしやすくなる

島前地域外からの生徒全てが補助を受けるというものではなく、学力・成績・地域との交流・やる気など条件を満たした生徒を対象とし、島前の子供たちにとっていい刺激を与える生徒を対象

・補助金や助成などの言葉が出てくるが、島前高の魅力化構想でも一律の補助ではなく新たな奨学金制度の創設も考えていくべきではないかな？

→ゆくゆくの考えていく問題、町村長との相談

魅力化としても考えていく必要。

まずは実績を出すことが欲しい。

検討する余地はある。

→島前高校に入る子に出す奨学金か？それとも大学に行く子へ出す奨学金か

→奨学金に準じた制度があればいいのではないか

・補助金や奨学金などは各町村の考え方でやっていくべき

→できるところからやっていく。

他がやらないからやらないではなく、やれるところからしていく

独自のやり方があっていいのではないか

三町村足をそろえてやるべき案件もあるが補助・奨学金制度は独自のものがあってもいいのではないか？

→具体的なことなど考えていく余地はあり、三町村一律でなくてもいい

子どもは地域の宝、多少の違いはあっても思いは一緒

矢田副会長挨拶

人は資源（？よく聞き取れなかった）、子どもは宝

魅力化は確実に進行している

魅力化の活動がきれることなく四月以降も続いていくことを願っている